

# 千葉県建築文化賞

## 第22回表彰作品集



2015年

主催：千葉県 共催：一般社団法人 千葉県建築士会



# 千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

第22回千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

今年度は、54点の応募をいただき、千葉県建築文化賞検討会議による検討内容を踏まえ、最優秀賞2点、優秀賞4点及び入賞2点の合計8点を選定しました。

受賞作品は、安全や快適性、景観、環境に配慮するなど、本県の建築文化の向上につながるものであり、千葉の魅力を高め、地域の活性化にも貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

さて、今年度は、総合計画「新 輝け!ちば元気プラン」実施計画の総仕上げの年です。千葉の未来を担う子どもたちや孫たちのために、首都圏、そして日本をリードする「日本一の光り輝く千葉県」の実現に向けて、全力で取り組んでまいりますので、引き続き皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、受賞者並びに応募いただいた皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさついたします。

平成28年3月

## 目次

千葉県建築文化賞について	1	ちはら台の家	8
第22回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	はくすい保育園	9
京葉銀行千葉みなと本部	3	八千代市立中央図書館・八千代市市民ギャラリー	9
鴨川の家	4	千葉県建築文化賞の実績	10
勝浦市芸術文化交流センター（キュステ）	5	（応募点数・受賞作品数）一覧	
The University DINING	6	受賞作品の位置	10
流山市立おおたかの森小・中学校	7	選考の基準	
流山市おおたかの森センター			
流山市立おおたかの森こども図書館			

# 第22回千葉県建築文化賞選考経過と総評

## 応募54点から8点授賞(選考経過と総評)

### (選考経過)

千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

第22回千葉県建築文化賞は平成27年6月の検討会議で募集要領を定め、7月上旬から9月下旬まで応募を受け付け、総数54点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物7点、住宅5点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の検討会議で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、最優秀賞2点、優秀賞4点、入賞2点を表彰候補作品として決定した。

賞の区分を「最優秀賞」「優秀賞」「入賞」の3区分に改めてから本年度2回目だが、今回は比較的規模が大きなもの、完成度の高いものが多かった。それが最優秀賞、優秀賞の点数が増えた一因である。現地調査の対象のうち、惜しくも授賞を逃した作品にも、今後の展開に期待できる可能性が見られた。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		33	7	1	3	2
住宅		21	5	1	1	0
合計		54	12	2	4	2

### (総評)

#### 一般建築物の部

一般建築物の部への応募は33点で、学校関連施設、公共施設に佳作が多かったが、それ以外に店舗、事務所、こども園など、今回も多彩な作品が寄せられた。

最優秀賞の「京葉銀行千葉みなと本部」は、港に通じる大通りに面して建設された新しい本部ビルであり、深い庇によって水平性を強調した端正なファサードが美しい。ディテールまで配慮が行き届いていると同時に、チャレンジ精神を感じることができる高質なデザインである。地域に開かれた街角広場やアート展示のショーケース、環境負荷低減や防災への取り組みなども高く評価された。

優秀賞の「勝浦市芸術文化交流センター(キュステ)」は、太平洋を望む高台に建つ多目的ホールと公民館機能の複合施設である。1階ガラス面の上にオーバーハングした2階が載り、煉瓦ルーバーのリズミカルな陰翳と合わせ、印象的なファサードを生みだしている。外部広場に開放可能な多目的ホール、第2のホールとして利用可能なホワイエなど、市民の多様なニーズに応え、稼働率も高いという。

「The University DINING」は、キャンパスを貫く並木道に面した平屋の学生食堂であり、深い庇の下に3面がガラス張りの明るいファサードを見せている。内部は見通しのよい大空間でありながら、天井高を抑え、居心地のよいスペースとなっている。ゼミやレセプションにも使われる大学の新しい中心であると同時に、地域に開かれた交流の場を提供している。

「流山市立おおたかの森小・中学校 流山市立おおたかの森センター 流山市立おおたかの森こども図書館」は、小・中学校併設校、地域交流センター、こども図書館、児童保育所の複合施設である。隣接する森につながる「風のみち」を軸に、性格の異なる施設をグルーピングすることによって、空間的にもプログラムのにも複雑な大規模複合施設をうまくまとめている。

入賞の「はくすい保育園」は、南に緩やかに傾斜した敷地を活かして、階段状に保育室を配置し、自然環境との交流を意識した明るく開放的な育みの場を生みだしている。「八千代市立中央図書館・八千代市市民ギャラリー」は、天空光をうまく取り入れ、子ども、高齢者、障害者も安心して使える明るく快適な空間を実現している。

#### 住宅の部

住宅の部の応募は21点であり、都市部だけでなく農村部や海岸部からも地域性を活かした個性的な作品が寄せられた。

最優秀賞の「鴨川の家」は、南房総の国定公園内、海を遠望する緩やかな傾斜地に配された母屋と離れからなる。高齢のご夫婦の“終の棲家”として計画され、介護の仕事に携わるご子息の意見を取り入れながら、介護される側、介護する側、それをサポートする側の三者の要求に応える配慮が行き届いたプランを実現している。水田に面した南側は、大きなガラスの開口から広いテラスにつながり、自然の恵みを楽しむと同時に、緑豊かな環境と調和する景観を生みだしている。

優秀賞の「ちはら台の家」は、築19年を経た大手ハウスメーカーの軽量鉄骨造住宅をリノベーションしたものである。構造と外観をほぼ維持しながら、断熱性の低さ、間取りの使いづらさ、収納の不足を解決するため、内部に大胆に手を入れ、居心地がよく使いやすい住まいへと再生している点が評価された。今後、類似条件の住宅リノベーションに応用可能なモデルとしても期待できる。